

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることができている。しかし、個人差が大きいことから、SA等による個別指導を充実させたり、ICT活用状況のデータ等を効果的に活用したりしながら、個々の対応を進めていく必要がある。さらに、国語の主語・述語の即応関係は多くの学年で課題があり、継続した指導が必要なことから、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を重点として取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	各教科の単元における振り返りや小論文を継続して取り入れてきたことで、学習してきた内容を整理して考えられるようになり、思考の深化につながっている。しかし、算数では適切なグラフの選択や単位量あたりの大きさで比較する際の立式等ついて課題があることから、そうした課題を意識しながら取り組む機会を多くもたせていくことで定着を図っていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合はどちらも全国及び市平均を上回ったものの、『本気の学び』の前提となる「各教科の勉強は好きですか。」の質問項目では、すべての教科・学年で市平均を上回っているわけではない。学びの楽しさを実感する指導法の工夫を継続しながら適切にフィードバックを行い、意欲の向上を図っていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査の国語・算数「知識・技能」における本校結果と、同程度の水準を維持する。(令和4年度全国学力・学習状況調査と市学習状況調査の国語・算数「知識・技能」における数値が、それぞれ同程度になるようにする)	⇒ ICT活用による基礎・基本の反復・習熟を行い、その履歴等のデータから個別最適な課題に取り組みできるようにする。(特に主語・述語の即応関係を重点とする) ・学年内、またはSA等による個別支援を充実させる。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」における本校結果と、同程度の水準を維持する。(令和4年度全国学力・学習状況調査と市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」における数値が、それぞれ同程度になるようにする)	⇒ 「見通す」「取り組む」「振り返る」サイクルの授業展開と、「吟味・検討」する学習を充実させる。(目的に応じた立式等、数量について吟味・検討する学習を重点とする) ・学習ツールとしてICT機器の効果的活用で、「深い学び」への深化を促す。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に展開し、「本気の学び」に向かう児童を育成する。 ・学んだことや身に付いたことを実感し、次の学習に向かう意識を高めるため、単元のまとめ等に際して、小論文等による振り返りを実施する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査と市学習状況調査の国語・算数「知識・技能」における数値は、それぞれ全国平均や市平均を上回っており、令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査と比較しても、同程度の水準を維持している。学習アプリの活用やSA等による個別指導に一定の効果があった。	A
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査と市学習状況調査の国語・算数「思考・判断・表現」における数値は、それぞれ全国平均や市平均を上回っており、令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度さいたま市学習状況調査と比較しても、同程度の水準を維持している。指導の中で、学習ツールとしてのICT活用と従来の学び合いがバランスよく実践され、思考を深化させることができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査(6年)及び令和5年度市学習状況調査(5,6年)の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、6年の肯定的な回答の割合が90%を超え、5,6年ともに全国及び市平均を上回ることができた。また、令和5年度市学習状況調査の生活習慣等に関する調査における、教科への興味・関心に対する質問項目では、肯定的な回答の割合が市平均を上回っている学年が多い。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均を上回っているものの、算数の図形の角度を求める問題で課題が見られた。解答類型を見ると、題意を正確に読み取れず、本来、正三角形の半分の角度を求めるところを正三角形そのものの角度を求めている児童が見られた。
思考・判断・表現	国語の「条件に合わせて文章を書く」問題や算数の図形の問題に課題が見つかった。国語と算数の共通の課題として「いくつかの情報を組み合わせて自分の考えをもつ」ことや「たくさんある情報から必要な情報を選択する」という点が挙げられる。特に算数の三角形の面積を求める問題では、テープの幅はどこも一定であるから「高さ」はすでにわかっている情報であるが、不必要な辺の長さに着目したため「求積できない」と解答した児童が多く見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は、全国の平均を上回っていることから、児童が主体的に学習に取り組む、「本気の学び」に向かっていることが伺える。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	各教科において市平均を上回り、R4年度調査と比較しても同程度の結果となった。しかし、国語の主語・述語の照応関係を捉える問題で課題があった。生活習慣等に関する調査での教科への興味・関心は、算数で肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語での肯定的回答の割合は市平均を下回っている。	小4	各教科において市平均を上回り、R4年度調査と比較しても同程度の結果となった。しかし、国語の主語・述語の照応関係を捉える問題、算数の適切なグラフを選択する問題で課題があった。生活習慣等に関する調査での教科への興味・関心は高く、国語・算数ともに肯定的回答の割合が市平均を上回った。
小5	各教科において市平均を上回り、R4年度調査と比較しても同程度の結果となった。しかし、国語の主語・述語の照応関係を捉える問題、算数の単位量あたりの大きさをういてこみ具合を比べる問題で課題があった。生活習慣等に関する調査の質問項目「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」では、肯定的回答の割合が87%だった。	小6	各教科において市平均を上回り、R4年度調査と比較しても同程度の結果となった。しかし、国語の主語・述語の照応関係を捉える問題、算数の基準量と比較量に着目し立式する問題で課題があった。生活習慣に関する調査の質問項目「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」では、肯定的回答の割合が92%に達していた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 各教科の様々な場面で、自分の考えの根拠を明確にして表出できるような場面を設定する。また算数の授業を中心に「何が問われているのか」「そのために使える情報は何か」を児童に問う機会を設定する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 各教科の単元の振り返り等において小論文を積極的に取り入れ、条件や観点を明確に意識しながら文章を組み立てられるよう指導する。また算数や理科などで「なぜそうなるのか」の根拠を吟味する時間を十分にとるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし